

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今日も賑やかでした。1年生が1人、2年生が2人、3年生が2人哲学ルームを訪れました。

—今日はどんなテーマを持ってきたの？

A：世界のはじまりです。

B：世界の始まりは生まれたときだと思います。

—その場合、世界とは「自分の世界」の意味だね。でも生まれたばかりではなにも分からないんじゃないの？それとも君は生まれたとたんに「おっ、世界だ」って分かるの？

A：僕は覚えていることによって世界があると思います。忘れていたら無いと同じです。意識的に覚えている状態があつて、それが無くなって、またそれから以前を思い出す。意識的に覚えている状態が世界がある、ってことです。無意識の状態では世界はありません。

—例えば眠っているときは世界はないってこと？

C：眠っているときも夢を5つか6つ見えています。それを忘れてしまうんだけど。だから夢を見ているときは世界はあります。

—夢の世界も世界だってこと？じゃあ、目覚めているときとどっちが本当の世界？

A：今も夢かもしれない。

—たしかに夢を見ているときはそれが現実だと思っている。ゴジラにおそわれたら逃げますからね。だとすると今みんなちゃんと学校来ている？布団の中じゃないよね。そうすると、眠る前と、眠っている間と、起きたときがあつて、それぞれに世界がある、ということになるのだけれど、ふつう私達は眠る前と、起きた後の世界を現実の世界だと思っている。何故だろう。もし朝起きたときに眠る前のことをまったく覚えていなかったらどうなるだろう。

C：私は誰？状態です。

—ということは現実というのはやはり記憶のつながりということだろうか。

D：僕は生きている間はすべて夢で、死んだときに覚めるんだとおもいます。

—どういうこと？

C：質量保存の法則ってあるじゃないですか。死んだときに15グラム体重が減るらしいんですよ。

A：22グラムだよ。

—まあまあ、それで？

C：つまりそういう精神的な世界があつて、そこからこの世に生まれたときに15グラム増えて、夢を見るようになって、そうして死んだときにその夢から覚めるってことじゃないかな。

B：でも死後の世界は誰も分からない。死んだ人に聞くこともできないから。

A：僕は覚えているときから世界があるって言ったんだけど、それはきっかけに過ぎなくて、そこには意識されない記憶が残っていると思います。人間ももともと生物だし、その記憶があると

思います。

—物質は？生物は30数億年前に誕生したといわれているけれど、その生物にも物質の記憶はあるはずだ。そうすると世界の始まりは結局宇宙の始まりだということになる。でもそもそもそのように考えているのは「自分」だ。つまり結局宇宙の始まりも「自分」の中にあるということになる。つまり世界は「今ここ」から生まれるとも言える。さてどのように考えたらいいのだろう。

A：分からない・・・

—残念だけれど、もう時間です。また遊びに来てね。

